

幼稚園のウェブログに対する保護者と職員の意識の調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大久保, 英哲, 中野, 淳子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2496

幼稚園のウェブログに対する保護者と職員の意識の調査

The Consciousness Investigation of the Protector and the Staff to Weblog at the Kindergarten

大久保 英哲

中野淳子

Hideaki OKUBO

Junko NAKANO

概要：幼稚園教育では学校教育以上に保護者との連携は欠かせない。そのための情報発信は必須である。そこで、毎月の便りや参観日、毎日の送迎時の情報交換に加えて、Weblogで子どもたちの様子を公開することにした。公開してから約2ヶ月半が経過したところで、Weblogの記録と保護者と職員へのアンケート結果を分析し、Weblogの効果や今後の課題について考察した。

キーワード： 幼稚園教育 Weblog 保護者 職員 情報発信

1 はじめに

国立教育政策研究所教育課程研究センター「幼児期から児童期への教育」の中でも「機会をとらえて、幼児の遊びの状況やがんばっていること等、具体的な児童の姿について、保護者に伝える必要がある(2005)」とあるように、幼稚園の情報公開、説明責任は重要な課題である。

幼稚園では、毎月の便りや参観日、懇談会、毎日の送迎時において情報公開に取り組んでいる。しかし、これだけでは幼稚園での遊びに対する意味を理解してもらったり、説明責任を果たしたりしているとは言い難い。そこで、本研究ではWEBページでの情報公開に取り組んでいきたいと考える。

これまでも電子メールやWEBを利用した情報発信は、先進的な学校や園において実践されてきた。例えば正来らは、コンテンツ作成や更新の容易な、また保護者がいつでもどこでも閲覧可能な携帯電話を対応の学校・学年webサイトのシステム構築運用を行い、その効果を明らかにしている。

そこで、本幼稚園でも手軽で容易に更新ができるWeblogを利用して保育情報を公開すること

にした。9月に公開して約2ヶ月半が経過した現在、保護者や職員からPCの操作や内容について意見が聞かれるようになってきた。今後本格的に運用していくために、問題点を洗い出し、改善点を見つけていく必要があると考える。

2. 研究の目的および方法

(1) 目的

上記問題に対応し、幼稚園でWeblogを運用する効果と運用していく上での課題を考察する。

(2) 方法

- ①Weblog「今日の幼稚園(ココログ@nifty)」を構築する。
- ②1ヶ月半ばにWeblogの投稿記録や保護者、職員へのアンケートから、Weblogに対する意識を調査する。
- ③調査結果から、Weblogの効果と今後の課題を考察する。

3. 幼稚園Weblogの運用の配慮点

本園のWebページは、1998年夏に開設され、沿革・教育目標・研究・年間行事予定・園歌・園舎平面図・教職員組織・園児の募集や研究会のお知らせが掲載されている。さらに、新着情

報で3ヶ月に1回程度、園の様子が発信されていた。保護者対象というよりは、入園希望者、研究会参加希望者を対象に公開されており、更新は年に10回程度であった。

そこで、2005年夏に保護者を対象に幼稚園の日々の活動を公開することをねらいとしてWeblogを構築した。その際には、個人情報保護や、幼児の安全確保のため、園に在籍する幼児の保護者のみの限定公開とし、パスワードとIDをつけた。また、万一のことを考えて、トラックバックとコメントは禁止する設定にした。

教諭、養護教諭、事務職、副園長には、パソコンが配布されているので、それを使って簡単な講習会を行った。

まだ試行段階であることから、保護者向けには、お便りではなく懇談会とポスターでパスワードとIDを知らせた。

4. 結果と考察

2ヶ月半、幼稚園Weblogを運用した結果、どのような効果が見られ、どのような課題があるかを投稿記録や職員と保護者へのアンケートから考察していく。

(1) 職員の投稿状況

①更新の回数

Weblogが、この2ヶ月半にどの程度更新されたかを見ると回数に差はあるが、全学年の担任から投稿されていることがわかる(図1)。

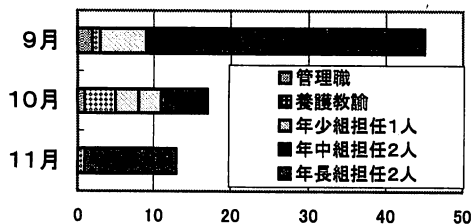


図1 月別投稿数

年長組担任は情報担当であることから多くなっているが、管理職や養護教諭からも6件と比較的コンスタントに投稿されている。10月の投稿が少ないのは、公開研究会があり投稿する時間がなかったことが原因だと考えられる。保育日数で割ると、1日平均1.53件であり、園全体では頻繁に更新されたと考えられる(表1)。

表1 1日あたりの投稿数

	投稿数	保育日数	1日あたりの投稿数
9月	45件	20日	2.25件
10月	17件	20日	0.85件
11月	13件	9日	1.44件

②投稿に要する時間と投稿時間帯

更新に要した時間は3分から6分が7人中4人であった(図2)。

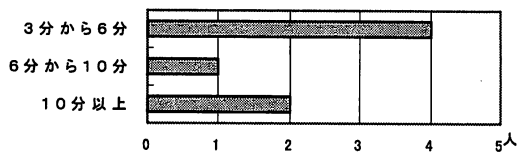


図2 投稿に要する時間

10分以上の回答者も画像挿入時に通信が切れた場合のみと応えており、投稿者の多くは短い時間に投稿できていると感じているようだ。そのためか、投稿する時間帯も初めは、勤務時間後が多かったが、徐々に勤務時間内が多くなった(図3)。

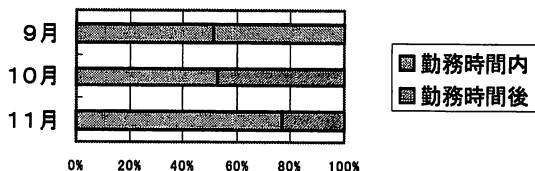


図3 投稿時間帯

③投稿の障害となるもの

さらにアンケートでは、投稿の障害となるものとして大きく、4つのことが挙げられた。(図4)

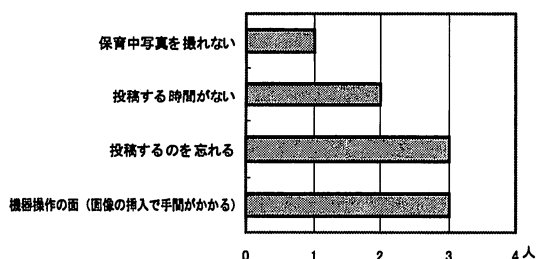


図4 投稿の障害となるもの

1つは機器の操作面である。通常のデジタルカメラではサイズが大きく、それをそのまま投稿してしまい、画像が大きすぎるという問題があった。そこで、撮影時にサイズを落とすか、画像挿入時にサイズを落とすという方法がとられるようになった。しかし、この操作があることによって、投稿への敷居が高くなるようである。また、画像挿入時に予期せぬ理由で通信が中断されることも数回続き、それも投稿への障害となったようである。

さらに保育中写真をとれないという問題もある。幼稚園では、幼児と体を動かしながら保育することが多い。その点からは、デジタルカメラが小さくなったとはいえ、保育中に持ちあるくことは障害となる。そのため、特に年少組では投稿数が少なくなるようである。

また、まだ初めて2ヵ月半ということで、投稿が習慣となっていないのでつい忘れられるという声も多かった。これは今後、情報担当が声をかけたり、週末にはまとめて投稿することを呼びかけたりすることが必要となりそうである(図5)。

2005年10月27日(木)



うさぎ組の一週間

今週も、絵の具遊び、お家ごっこ、マジンジャーごっこ、砂場など、元気いっぱい遊びました。今日は、ムシキングに夢中して、森の相撲大会も楽しみましたよ。



投稿者 fuyuu 時刻 10時46分 | 固定リンク | コメント 0

図5 年少組の投稿

④Weblogのよさ

アンケートではWeblogのよさについても調査した。優先順位をつけてもらい1番は3点、2番は2点、3番は1点と得点化した(図6)。結果、園の様子をタイムリーに伝えることができることが1番に挙げられた。毎月のお便りでは幼児の様子を知らせているが、一月に1回なのでなかなかタイムリーにはいれない。また写真も挿入しているが白黒なので、生き生きとした様子は伝わりにくい。その意味からも毎日の様子をすぐに伝えられるWeblogのよさを強く感じているようだ。また、Weblogによって、他学年が何をして遊んでいるのかを改めて知るといった効果もあるというのは、期待していなかった効果であった。

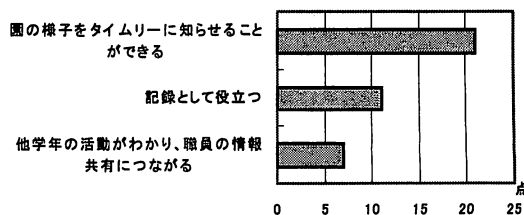


図6 Weblogのよさ

(2) 保護者の意識

① アクセス頻度

Weblogへのアクセス頻度をアンケート調査した(図7)。PRが足りなかったか、年長組、年中組でのまだ見ていない人や、これまでに2、3回という人が多かった。しかし、年少組では、やはり保護者の関心の高さを裏付けるようにほぼ毎日か、週に2、3回アクセスすると回答している人があわせて40%を超えている。年少組の保護者は、幼児からは園での様子が伝わらないことから、園からの情報を期待していることが伺われる。

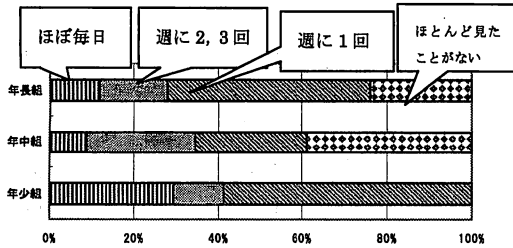


図7 アクセス頻度

② アクセス時間帯と場所

アクセスする時間帯と場所も保護者にアンケート調査した(図8)。

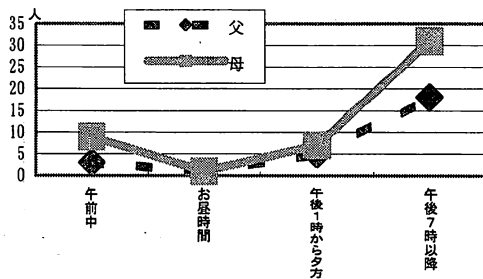


図8 アクセスする時間帯

結果、父母ともにアクセスする時間帯は夕方から7時以降が多いことがわかった。自由筆記の中にも「夕食後に家族みんなで見ています」「父親が職場でも楽しみに見えています」という記述も多く見られ、当初は期待していなかった父親のアクセスが予想以上に多かった。アクセスする場所も職場という人が3割近くを占めた(図9)。

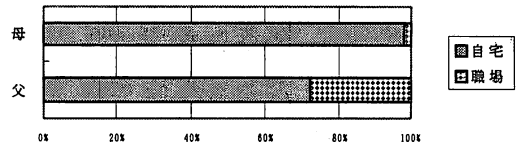


図9 アクセスする場所

③ 保護者の感想、要望

感想の中では、普段の子どもの自然な様子がわかるという回答が最も多かった(図10)。「参観日では自分の子どもを中心に自分の視点で見えていましたが、また違ったところを見ることができました」「子どもが話してくれる園の話がよりわかる」「家では園の様子をあまりしゃべらないので助かります」「送迎だけではわからない様子を見ることが出来る」というような意見に代表されるように。園の様子を知ってもらうためには効果的だったと考えられる。しかし、やはり、職員と同様に画像が適切に挿入されていないことが挙げられている。各学年の投稿にばらつきがあったことから、「各学年平均的に掲載してほしい、学年ごとに分けて掲載してほしい」という意見も出されている。しかし、中

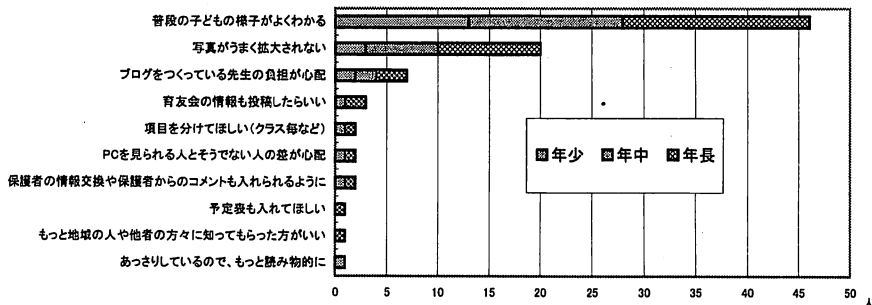


図10 保護者の感想、要望

には「全学年の様子がわかり、我が子も来年はその次はこの様な活動が出来るようになるのかと思いつながりを楽しんでおります」とあるような視点の意見もあった。

さらには、「PCを閲覧できる環境にある人とそうでない人のギャップが生じる情報の公開は留意しなければいけないので難しいと思いました」という意見もあった。ネットワークにつながったPCがないと回答した家庭もアンケートでは7件見られた。日常的にPCを開く環境でない家庭も多いので、デジタルデバイトを防ぐ工夫として、紙面での公開や送迎時にパソコンを閲覧できるようにするなどの配慮が必要であると考えられる。

(3) Weblogの内容

①Weblogの内容

Weblogの内容を分析した結果、遊びについての投稿が9、10、11月共に多かった(図11)。

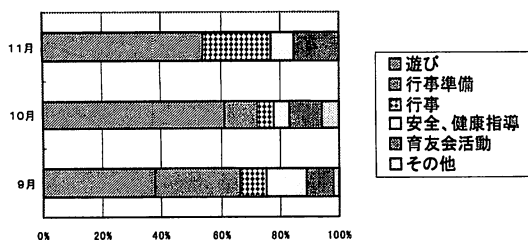


図11 Weblogの内容

9月は運動会の練習をかねた行事の準備が多かった。行事の準備も幼稚園では遊びの中で行うことが多いことを考慮すれば、全体の66%が遊びについての内容であったことがわかる。安全、健康指導も全体では10%を占めている。これは安全、健康指導の場合はTTで行うことが多いので写真も撮りやすく投稿が容易になると考えられる。また育友会活動についても11%で予想よりも高い。幼稚園では育友会活動が盛んに行われているのでそれを他の保護者にも伝えようとする職員の意識の表れだと考えられる。

②今後期待する内容

今後期待する投稿内容として、保護者はやはり、保育の様子が多かった(図12)。しかし職員は保育の様子だけでなく、育友会活動や保護者のサークル活動についても投稿できればよいと考えていることがわかった。

保護者からの感想、要望の自由筆記の中には「トラックバックは必要ないと思いますが、コメントは入れても良いのでは?と思います。行事のあとなどに先生方にお礼をお伝えしたい時があります」「父兄の意見交換の場があればさらによいのではと思います」という記述もあった。単に園からの情報発信の場ではなく、情報交換の場として期待されていると考えられる。

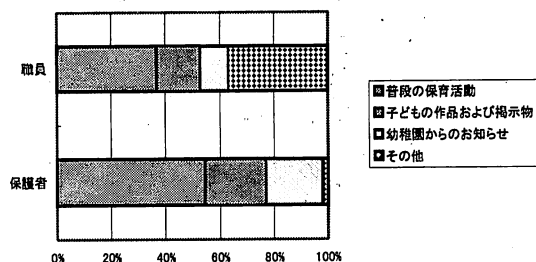


図12 今後期待するWeblogの内容

7. 結論と課題

以上の考察の結果、次のことが明らかになった。

- ①幼稚園Weblogは、園での子ども達の姿を保護者に伝えたり、あまり幼稚園の行事に参加できない父親も閲覧したりすることができ効果的である。
- ②Weblogの操作は、比較的容易なので頻繁な更新は可能であった。しかし、画像の挿入が現在、障害となっている。また、幼稚園の特徴上写真を毎日撮影することは難しい状況である。この問題に対しては、保護者に理解を求めたり、週に1回まとめて投稿したりするなどの工夫が必要である。
- ③Weblogは試行段階では園からの情報発信が目

的だったが、情報交換の場としても期待されている。

- ④保護者間のデジタルデバイトを防ぐために、紙ベースでの情報発信や、直接コミュニケーションの場も欠かせない。

8. 参考文献

- 幼児期から児童期への教育, p.68. 国立教育政策研究所, 教育開発センター, 2005
- 閲覧と発信を容易にした学校WEBページの構築と効果, 正来 洋, 第28回全日本教育工学研究協議会沖縄大会, 2003

附 記

本論文は金沢大学教育学部附属幼稚園 中野淳子教諭の実践研究である。園に関する運営、Weblogの運用や内容については、園長（平成14～17年度）である大久保英哲が責任を有するが、本研究の業績はひとえに中野淳子の手に戻すものであることを明記したい。（大久保英哲記）